

6月福井県議会での乾式貯蔵施設の事前了解を止め

高浜原発第1期分の秋の建設にストップを！

六ヶ所再処理工場のガラス固化試験の先送りは安全性の軽視で無謀
関電のロードマップに実効性はない

福井県会議員等に反対の声を集中しよう

チラシ・議員のメールアドレス等はこちら <https://x.gd/TuF6W>

1. 乾式貯蔵施設の建設同意の判断が福井県議会で山場を迎えている

福井県の判断基準：「設工認の説明終了」→「補正申請など再処理工場の状況を踏まえる」

6月福井県議会が始まった(6月22日～7月21日)。6月県議会は、関電の乾式貯蔵施設の建設に同意するかが、最大の焦点となっている。

福井県はこれまで、六ヶ所再処理工場の設工認(設計と工事の認可)の説明が終了した段階で、同意を判断すると述べてきた。「説明終了」で判断するとは無謀すぎる。県議会への陳情や議員へのメール等で、県内外の市民はこのことを訴えてきた。県議会直前の6月18日には、福井と関西の4団体が陳情書を提出し、ともに乾式貯蔵施設の建設を認めないよう求めた(8頁)。また、6月16日のおおい町会原特委員会では、町議から、六ヶ所再処理工場は順調に進むのか、ガラス固化は本当にできるのか等の不安の意見が多く出された(16頁)。

このような状況の中で始まった県議会だが、県の答弁はこれまでと違っていた。以下のように、「設工認の説明終了後」から、その後のしゅん工に向けた補正申請等の「再処理工場の状況を踏まえ」判断すると述べた。

25日の代表質問で自民党議員が事前了解の判断基準を尋ねた。知事は、「昨年9月議会で・・・設工認の説明が終了した段階で判断していくとの方針を示した」と述べたうえで、続けて「六ヶ所再処理工場については、6月8日の審査会合で設工認に係る説明が一通り終了いたしました。今後、竣工に向けては、補正申請、保安規定、検査等の工程があると認識しております。こうした再処理工場の状況や県議会の議論などを踏まえ、十分検討し、乾式貯蔵施設の事前了解について、県として適切な時期に判断してまいります。」と答弁した。

同日の野党「民主・みらい」の代表質問では、設工認の説明終了だけで判断するべきではない、

目次

- ▼高浜乾式貯蔵の建設にストップを・・・p.1
- ▼ガラス溶融炉には根本的欠陥・・・p.4
- ▼再処理はプルトニウム保有量でも制約・・・p.6
- ▼美浜3号機の蒸気漏れ事故・・・p.7
- ▼福井県議会に陳情書提出・・・p.8
- ▼(投稿) 原発「建て替え」に反対しよう・・・p.10
- ▼抗議声明 大飯裁判不当判決・・・p.12
- ▼判決批判：基準地震動の過小評価・・・p.13
- ▼(投稿) 乾式貯蔵に厳しい意見が続いたおおい町会・・・p.16

ガラス固化試験等々もあり、再処理が操業開始にこぎつけられるのかは不透明だ等の質問・意見が出された。これについては、防災安全部長が知事と同様の答弁を行った。

知事は、事前了解の判断時期については「適切な時期に判断する」とだけ述べ、明言を避けている。判断基準を変えたのだから、6月議会で乾式貯蔵施設の建設に同意してはならない。

2. 青森県知事は、設工認の説明が終わっただけで「状況は変わっていない」 むつ中間貯蔵施設への東電の使用済核燃料の搬入を当面は認めず

6月18日には、経産大臣や電力各社が参加する「使用済燃料対策推進協議会」が開かれ、今年度中のしゅん工実現に向け、国が再処理工場の進捗を管理する等を述べている。会議はわずか15分で、青森県知事を意識した発言だ。

他方で青森県知事は、設工認の説明が終わっただけで「今の時点では状況が変わったとは思っていない」と述べ、むつ市の中間貯蔵施設に東電の使用済核燃料の搬入を「当面認めない」と語っている。「審査（全体）が終わるとということと、竣工（完工）までにどれぐらいかかるかというところを私は見ている」（6月24日デーリー東北）。再処理工場の操業が確認できなければ、むつ市の「中間貯蔵施設」は論理的に成り立たず、「今年度中のしゅん工」が不確かなためだ。再処理工場は建設から既に33年が経過し、完成目標は27回も延期となっている。

青森県知事は、核融合の誘致を目指すなど原子力推進の立場だ。今回の発言の裏に何があるのか知る由もない。福井県の姿勢の変化に、青森県知事の意向が影響しているのかも定かではない。

3. 福井県、立地町の事前了解がなければ、乾式貯蔵施設の建設には進めない 新幹線「小浜ルート」決定に向けて「原発カード」を取引材料にしてはならない

関電は、使用済燃料燃料プールが最も満杯に近い高浜原発での乾式貯蔵施設の建設を、9月頃に開始する計画だ。福井県と立地町の事前了解なしには、建設に向けた設工認申請を国に提出することができない。事前了解が遅れば、建設開始は先に延び、高浜原発の運転停止が現実のものとなる。高浜町会と美浜町会は、既に建設同意の意思をまとめ、町長へ報告することになっている。県の事前了解を止めることが最重要の課題だ。

6月議会で福井県知事は、福井の原発によって関西圏は経済的利益を得ていると強調し、北陸新幹線の敦賀延伸ルートを小浜-京都ルートにするよう力説している。与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームは7月17日国会終了までに、8つのルートから一つに絞り込む予定だ。小浜ルート確定に向けて、乾式貯蔵施設の建設同意という「原発カード」を取引材料にしてはならない。福井県議会は7月21日が最終日のため、気を抜くことはできない。

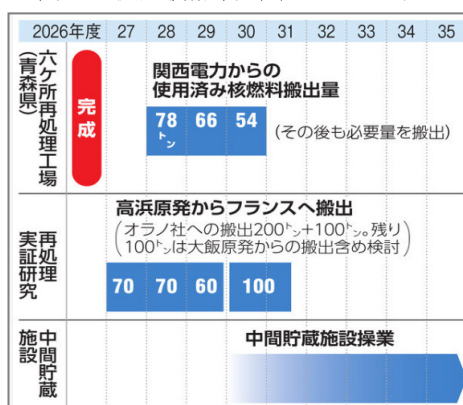
4. 関電の使用済燃料対策ロードマップは破綻

乾式貯蔵施設に反対する理由は、「議員にメールを出そう」のチラシ^{※1}等でも紹介しているが、ここでは、関電が6月12日に出した報告を基に批判する。

（※1 6月21日付 避難計画を案ずる関西連絡会チラシ <https://x.gd/EAw9K>）

関電は6月12日に「使用済燃料対策ロードマップの進捗状況について」^{※2}を公表し、12日には福井県に説明し、6月県議会初日の22日には全員協議会で説明した。

関電の使用済燃料対策ロードマップ



朝日新聞 2025. 2. 14

同様に、立地の町会でも説明している。

県議会では、「民主・みらい」の議員が「ロードマップの実効性を確認するためには、六ヶ所再処理工場の竣工や稼働が確実になった時点で判断すべき」と問うた。県の防災安全部長は、関電の計画を繰り返し「適時適切な報告を求めており、引き続き国と事業者の対応を厳しく監視」と述べるとどめた。

※2 6/12 関電報告 https://www.kepco.co.jp/corporate/notice/notice_pdf/20260612_1.pdf

<関電のロードマップと6月12日関電報告の問題点>

① 相変わらず、六ヶ所再処理工場のしゅん工を今年度中（2027年3月まで）としている ガラス固化試験の先送りには触れず

▼再処理工場の設工認の説明が6月8日の審査会合で終了したとして、今後は補正申請書の準備を3～4か月かけて進める。その後、保安規定の申請・審査・認可も続く。▼ガラス溶融炉検査等は、重大事故等対処訓練と並行して実施するとして工程の短縮化をはかっている。▼ガラス溶融炉検査は放射性物質を含まない模擬廃液で実施。▼高レベル濃縮廃液の保有量低減は、保安規定に先送りしているが、具体化は不明。

これらによって2026年度中のしゅん工目標に変化はないとしている。しかし、しゅん工後に先送りしたガラス固化ができなければ、関電等の使用済核燃料を再処理工場に搬出することもできない。とにかく形だけのしゅん工を狙っている。（4頁）

②フランスでの使用済MOX燃料の再処理実証試験は、実効性が不透明

▼フランスに搬出するための輸送容器は、12基の内2基が完成。2基は今秋に高浜原発に受け入れ予定。▼2027年度からフランスに搬出し、事前確認をフランスで実施。

しかし、「もんじゅ」の使用済MOX燃料用の再処理を予定していた（特殊燃料処理施設TCP）の新設計画は、2028年までに運転を開始する想定だったが、技術的にも資金確保の面でも目途がたたず、白紙撤回となった。使用済MOX燃料の再処理も先行きは不透明だ。

③中間貯蔵施設は候補地さえ決まっていない

乾式貯蔵施設で保管した使用済核燃料の搬出先である中間貯蔵施設については「2030年頃の操業開始に向けて、引き続き、最大限取り組む」と記しているだけ。山口県上関町の中間貯蔵施設計画について、中国電力は規模等の具体的な構想さえ未だに公表することができず、「地域の理解を得て必ず実現したい。事業計画の提出に向け検討を進める」と述べるだけだ。地元山口県では、関電分を受け入れることに強い反発がある。上関町に隣接する柳井市議会では中間貯蔵施設反対の請願が採択される見通しだ。

5. 6月福井県議会に、乾式貯蔵施設反対の声を集中しよう ❖

肝心のガラス固化試験を先送りにした六ヶ所再処理工場の計画からも、それを前提とした関電のロードマップの状況からも、乾式貯蔵施設の建設に同意できる状況にはない。

6月福井県議会での建設同意を止めていこう。同意判断は、ここまで3回延期させている（昨年9月・昨年12月・今年2月議会）。6月議会での建設同意を止めれば、関電が計画する高浜第1期分の乾式貯蔵施設の建設を止めることができる。住民説明会も求めよう。

福井、関西、全国から、建設反対の声を強めよう。住民や議員にメール等で声を伝えていこう。老朽原発の一層の運転延長と地元を核のゴミ捨て場にする乾式貯蔵の建設を止めよう。

それを通じて、政府の危険な原発増設（リプレース）、核のゴミの増大等に反対していこう。